

# WPI プログラムの実績と将来

## プログラム委員会の結論

(追加:プログラム・ディレクター提案)

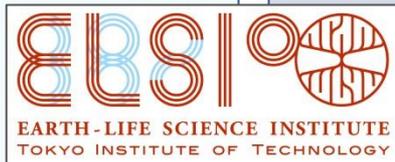


黒木登志夫  
WPIプログラム・ディレクター  
(日本学術振興会・学術システム研究センター・相談役)

# Origins of Universe/ Earth/Life



U. Tokyo 2007



Tokyo Tech 2012

# Life Science



Osaka U. 2007



U. Tsukuba 2012



Nagoya U. 2012

# Materials/ Energy



Tohoku U. 2007



NIMS 2007



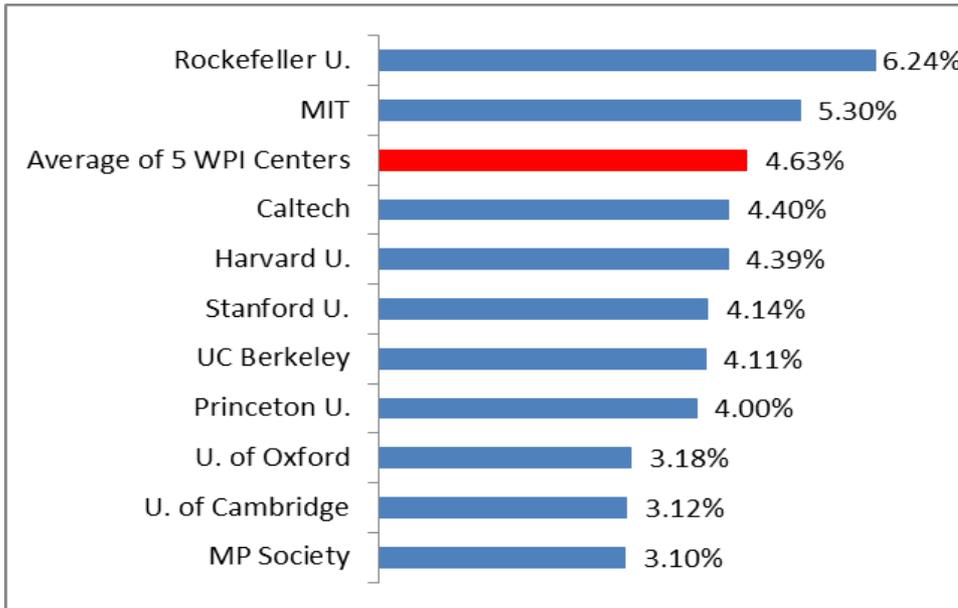
Kyushu U. 2010

# WPIのミッション

1. 世界最高レベルの研究水準
2. 融合研究によるブレークスルーとパラダイムシフトの創出
3. 世界に開かれた国際的研究センターの設立
4. 研究組織の改革

## トップ1%論文\*比率

(2007年度採択拠点 2007~2013年論文)



\* 先行5拠点論文のうち、他の研究者から引用される回数(被引用数)上位1%にランクインする論文の割合。

(トムソン・ロイターのデータに基づきJSPS作成)

## 国際化実績

- WPI拠点の外国人PI比率: 31.6%
- 拠点に常駐する外国人PI  
例: ELSI 4/19PIs
- PI以外の外国人研究者: 41.4%
- ポスドクにとって誇るべき研究機関  
例: Kavli IPMU

(2015年拠点構想進捗状況報告書よりJSPS集計)

# 2007年度採択5拠点延長審査

2014年プログラム委員会

## 原則:

WPIプログラムの支援期間は10年である。

卓越した成果を上げた拠点は5年間支援期間を延長する。

- 全ての2007年度採択拠点はプログラムの要求する“World Premier Status” に十分達している。
- WPI拠点は国際的頭脳循環のハブになっている。
- 新規拠点の採択によるWPI拠点の「代謝」が必要である。
- カブリIPMUの支援期間を5年間(2021年まで)延長する。
- AIMR、iCeMS、IFReC、MANAは2016年度で支援を終了する。

# WPI拠点の持続

- 2007年度4拠点(AIMR、iCeMS、IFReC、MANA)のホスト機関長は、WPI拠点を維持するために次の措置を行うことを表明した。
  - 研究者、ポスドク、研究スタッフのポジションを用意する
  - 施設維持のための費用(~6億円)を用意する。
  - ホスト機関の組織にWPI拠点を組みこむ。

その上で、ホスト機関長は国際的拠点を維持し続けるため、ある程度の支援を要望している。

- WPI拠点に関する持続宣言は、これまでの拠点形成プログラム(次ページ)が維持できなかった事実とは対照的である。

# 文科省による拠点形成プログラム

- 「学術の新たな展開のためのプログラム」(新プロ)(1990年～)
- COE(1995年～;5年間)
- スーパーCOE (2001年～;5年間) 13拠点
- 21世紀COE (2002年～;5年間) 274拠点
- 先端融合領域イノベーション拠点 (2006年～;10年間)
- グローバルCOE (2007年～;5年間) 140拠点
- WPI (2007年～;10+5年間) 9拠点

# Research Excellence Initiative (REI) は世界的な傾向

- 世界レベルの競争のなかで、各国政府は、知識基盤社会のために、基礎および応用研究推進へのより効果的な資金投下の方法を探っている。
- OECD加盟諸国の3分の2は、大規模かつ長期的な資金により卓越した研究の活性化を目的としてREIを設置している。
- WPIはREIのロールモデルと見なされている。



# REI国際ワークショップ & WPIプログラム委員会

2015年10月14-16日 東京

ドイツ : Excellence Initiative (EI)

フランス : Investments for the Future

イスラエル : Israeli Centers of Research Excellence (I-CORE)

カナダ : Canada First Research Excellence Fund

米国 : Science and Technology Center

英国 (Higher Education Funding Council for England)

マックスプランク協会

北京大学

# プログラム委員会結論(1) (仮訳)

## 1. WPIプログラムの継続

- 2007年度拠点は、科学的業績においても、WPIミッションの実行においても、“World Premier institute”を樹立した。
- WPIプログラムはミッションと支援スキームを再設定し、継続すべきである。
- 2014年度プログラム委員会で同意されたとおり、WPIプログラムは拠点の“代謝”により、さらに推進されるべき。
- 2017年度に新たなWPI拠点の公募を実施するべきである。

# Conclusion(1) (原文)

## 1. Continuation of WPI program

- 2007-WPI Centers have been established successfully as a “World Premier institute” in terms of scientific achievements and implementation of its missions.
- WPI program should be continued after reconsideration of its mission statements and support schemes.
- WPI program will be further accelerated by “Metabolism” of centers, as being agreed by the 2014-Program committee.
- A call for new WPI center proposals should be made in FY2017.

# プログラム委員会結論(2) (仮訳)

## 2. 補助金期間終了拠点の支援

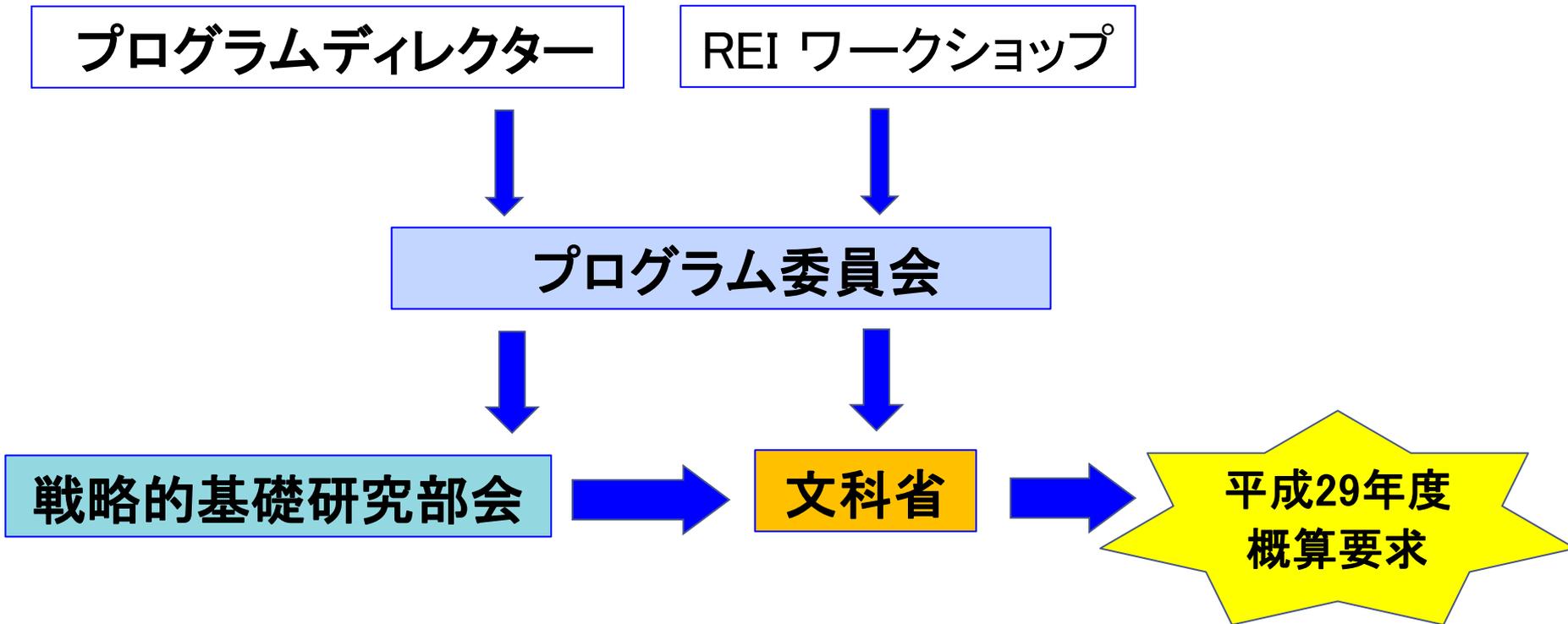
- ホスト機関長は施設、研究者ポスト、拠点運営費の供与などホスト機関の努力により、WPI拠点を持続することを約束した。
- WPI拠点が達成した卓越性に鑑み、補助金期間終了拠点に対し何らかの研究資金スキームを整備し、WPIブランドを維持することを、プログラム委員会は推薦する。
- WPI基準を満たした拠点によって構成される“WPI Association またはWPI Academy”システムを樹立することを推薦する。
- これらのWPIセンターは定期的(例えば3年毎)に、WPI基準に沿って、活動状況を評価されるべきである。

# Conclusion(2) (原文)

## 2. Support for the former centers

- Presidents of host institutions promised that WPI centers will be sustained by their efforts, providing facilities, researcher positions, and costs for their management.
- Considering the excellence that WPI centers achieved, PC recommends that Government keeps the WPI brand by setting up a grant scheme for the former centers.
- We suggest to establish a new system, “WPI Association or WPI Academy”, with members satisfying WPI standards.
- These WPI centers will be evaluated regularly (e.g. every 3 years) for their performance of the WPI standards.

# WPI将来計画策定まで



# WPIプログラム長期計画 (プログラム・ディレクター提案)

